

滝川市立高等看護学院 自己点検・自己評価

I. 経過

本校では、自己点検・自己評価を厚生労働省からの報告書「看護師養成所の教育活動等に関する自己評価指針作成検討会」の自己点検項目にそって 2006（平成 18）年に実施した。その後、2013（平成 25）年、2018（平成 30）年、2019 年（令和元）年に前年度を調査対象年度とし自己点検・自己評価を実施し改善に取り組んできた。

II. 自己点検・自己評価方法

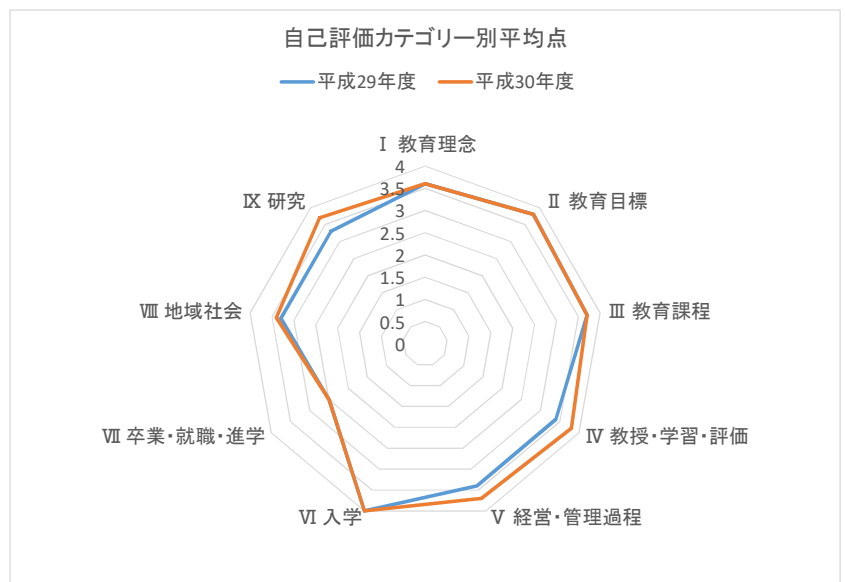
自校の課題に取り組むためには、現状の把握と各教員間の意識統一、教員間での他者評価が必要であり、各教員「対話」を重視しながら教員間で 4 段階のリッカート尺度「4：よく当てはまる」「3：大体当てはまる」「2：あまり当てはまら」「1：当てはまらない」を使用し評価を一致させた。次に 4 段階のリッカート尺度を「よく当てはまる」4 点、「大体当てはまる」3 点、「あまり当てはまら」2 点、「当てはまらない」1 点に点数化し、各カテゴリーごとに平均値を図示した。

III. 結果

以下に調査対象年度平成 29 年度と平成 30 年度の結果を記載する。

1) カテゴリー別平均点数

	平成29年度	平成30年度
I 教育理念	3.6	3.6
II 教育目標	3.8	3.8
III 教育課程	3.7	3.7
IV 教授・学習・評価	3.4	3.8
V 経営・管理過程	3.4	3.7
VI 入学	4.0	4.0
VII 卒業・就職・進学	2.5	2.5
VIII 地域社会	3.3	3.4
IX 研究	3.3	3.7



平成 29 年度における 3.6（90%達成率）未満の項目は、IV「教授・学習・評価」V「経営・管理過程」VII「卒業・就職・進学」VIII「地域社会」IX「研究」の 5 項目だった。3.2（80%達成率）未満の項目は、VII「卒業・就職・進学」であった。平成 30 年度は、3.6（90%達成率）未満の項目は、VII「卒業・就職・進学」VIII「地域社会」の 2 項目のみとなった。

2) 各カテゴリーの評価内容と点数

I 教育理念・教育目的		H29年度	H30年度
1	卒業時点において育成する看護師がどのような資質を有しているか明示されている	3	3
2	育成する看護師等の質を保証するために、どのような教育内容、方法、教育環境を整えようとしているのか明示されているか。	4	4
3	看護、看護学教育、学生観について、教師の教育活動の指針になるように明示されているか。	3	3
4	教育理念・教育目的は、学生にとって学習の指針になるように具体的に明示されているか。	4	4
5	自養成所の教育上の特色を示し、かつそれは法との整合性はあるか。	4	4
平均		3.6	3.6

II 教育目標		H29年度	H30年度
1	看護実践者としての能力を育成する側面と、学習者としての成長発達を促すための側面から教育目標を設定しているか。	4	4
2	教育目標は、設定した教育内容を網羅し、かつ教育活動のゴールが読みとれるものとして明示されているか。	4	4
3	卒業後の継続教育の考え方を示した上で、看護基礎教育として教育目標を設定しているか。	3	3
4	教育目標において、目標内容と到達レベルが対応し、具体的で実現可能な目標として明示しているか。	4	4
5	教育理念・教育目的と教育目標が一貫しているか。	4	4
平均		3.8	3.8

III 教育課程経営		H29年度	H30年度
1	教育課程と授業実践、教育の評価の関連性を明確に持ち、教育理念・教育目的の達成に向けて一貫した活動を行なっているか。	4	4
2	教育課程は、看護学の内容、求める学修の到達および学生の成長発達について明確な考え方と根拠をもって編成しているか。	4	4
3	科目構成、単元構成は教育理念・目的、教育目標との整合性をもち、構成された科目は看護実践者を成すために妥当であり、かつ養成所の特色をあらわしているか。	3	3
4	単位履修の方法が教師・学生の双方がわかるように明示し、その方法が学生の単位修得の支援となっているか。	4	4
5	科目の配列は、単位履修と看護実践者になるために養成所が設定したその質を維持して修得できるような配列になっているか。	4	4

6	単位認定の基準（設定）および方法において看護専門職に必要な学修を認めるものとして妥当であるか。	4	4
7	他の高等教育機関と単位互換が可能な体制を整えているか。	4	4
8	教育課程を評価する体系が整っており、また、結果の活用における倫理的規定が明確になっているか。	2	2
9	担当科目や担当時間数の関連から、教員の専門性が活かされ、授業準備に関する時間が保障され教員の専門性を教授できる体制を整えているか。	3	3
10	教育課程の運営の実践者である教員が自ら成長できるための相互研鑽、自己研鑽のシステムを整えているか。	4	4
11	臨地実習施設は、養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解し、学生の看護実践の学習を支援する体制を整えているか。	4	4
12	臨地実習指導における学生の学びを保障するために、臨地実習指導者と教員がそれぞれの役割を明確にし、協同体制を整えているか。	4	4
13	学生からケアを受ける対象者の権利を尊重するための考え方を明示し、学生への指導を計画的にしているか。	4	4
14	臨地実習における学生が関係する事故を把握、分析し、安全教育、安全対策を計画的にしているか。	4	4
平均		3.7	3.7

IV 教授・学習・評価過程		H29年度	H30年度
1	当該授業の内容は、教育課程との関係において当該学生のための授業内容のまとまりとして考えているか。	4	4
2	授業内容のまとまりづくりの考え方を科目目標との整合性を踏まえて明確に述べているか。	4	4
3	授業内容のまとまりは、看護学の教育内容として妥当性がある内容となっているか。	3	4
4	当該授業内容と他の授業内容との関連において、重複や整合性、発展性などについて述べているか。	2	4
5	履修形態（講義、演習、実験、実習）は、授業内容のまとまりづくりに応じた形態を選択しているか。	4	4
6	授業展開に用いる指導技術についての考え方を授業計画などに明示し、実践しているか。	2	3
7	学生の学習が深化、発展するための方法を意図的に選択し、学習を支援しているか。	4	4
8	学生に対し効果的な教育指導を行なうにあたり、教員間での協力体制が整っているか。	4	4
9	評価計画が立案・実施され、評価結果を活用し、実際に授業が改善されているか	3	4

10	学生および教育活動を多面的に評価するために、多様な評価の方法を取り入れ、目標の達成状況を明確にとらえているか。	3	3
11	単位認定のための評価については、学生に公表（認定基準など）し、公平性があるか。	4	4
12	シラバスの提示や学習への指導は、養成所全体としての一貫性をもって学生の学習への動機付けと支援になっているか。	4	4
平均		3.4	3.8

V 経営・管理過程		H29年度	H30年度
1	管理運営に関する管理者の考え方を設置者の意思との一貫性を持って明示し、かつ教職員は理解しているか	4	4
2	組織体制は、意思決定のシステムや権限、役割機能が明確であり、かつ組織構成員の意思の反映や決定事項を周知できるように整えているか。	4	4
3	組織の構成と教職員の任用、および、教職員の資質の向上についての考え方と対策は、教育理念・目的を達成するために整合性を持っているか。	3	3
4	財政基盤をどのように確保しようとしているかについて明確な考え方をもち、学習・教育の質の維持・向上につながるようになっているか。	2	4
5	教職員は、養成所がどのような財政基盤によって成り立っているかを理解し、それぞれの観点から財政についての意見を経営・管理過程に反映できるようになっているか。	3	4
6	学習・教育環境について、管理者としてどのような考え方をもち整備しようとしているかを示し、その考え方に基いて整備計画を立案し、実施しているか	3	3
7	看護の専門職教育に必要な施設設備を計画的に整備し、また、医療・看護の発展や学生層の変化にあわせて、整備・改善できるようになっているか	3	4
8	学生および教職員にとっての福利厚生の施設設備は、養成所が設備されている地域環境との関連から検討し、学生生活や教職員の職務が円滑に遂行できるよう整備しているか	4	4
9	学生が入学後に学修を継続できる支援体制を多角的に、かつ学生が活用しやすいように整え、実際に学生生活の支援になっているか。	4	4
10	教育・学習活動に関する関係者への情報提供を行なうことによって、その協力・支援を得ているか。	4	4
11	広報活動は、看護専門職を育成する機関として、その存在を十分にアピールし、かつ社会的説明責任を果たす内容と方法になっているか。	2	3
12	養成所の運営は明確な将来構想の基に、中・長期計画、短期計画、毎年の運営計画・実施・評価は整合性をもって行っているか。	4	4

13	自己点検・自己評価の意味と目的を理解し、実際に自己点検・自己評価を行うための知識と方法を明確に持っているか。	4	4
14	養成所の自己点検・自己評価体制を整え、運用し、その機能を養成所のカリキュラム運営、授業実践にフィードバックし、養成所の教育理念、目的、目標を維持・改善しているか。	3	3
平均		3.4	3.7

VI 入学		H29年度	H30年度
1	教育理念・教育目的との一貫性から入学者選抜についての考え方を整えているか。	4	4
2	入学者状況、入学者の推移について、入学者選抜方法の妥当性及び教育効果の視点から分析し、検証しているか。	4	4
平均		4.0	4.0

VII 卒業・就職・進学		H29年度	H30年度
1	卒業生の到達状況、就職・進学状況を分析した結果は、教育理念・教育目標と整合性があるか。	4	4
2	卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にし、教育を改善するために、就職先との情報交換や調査の実施などができる体制が整っているか。	2	2
3	卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理し、教育理念、教育目標、授業の展開に活用しているか。	2	2
4	卒業時の到達状況を捉える方法が明確であり、それを計画的に行なっているか。	2	2
平均		2.5	2.5

VIII 地域社会／国際交流		H29年度	H30年度
1	社会との連携において、地域のニーズを把握し、看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行なっているか。	4	4
2	養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段、養成所から地域社会へ情報を発信する手段を持っているか。	4	4
3	地域の特徴を把握し、地域内における諸資源を養成所の学修・教育活動に取り入れているか。	4	4
4	国際的視野を広げるための授業科目を設定しているか。	4	4
5	国際的視野を広げるための自己学習システムが整っているか。	3	3
6	海外からの帰国学生や留学生の受け入れる体制があるか。	2	2
7	留学や海外において看護職に就くこと等を希望する学生に対応できる体制がある	2	3

	か。		
	平均	3.3	3.4

IX 研究		H29年度	H30年度
1	教員の研究活動を保証（時間的、財政的、環境的）しているか。	2	3
2	教員の研究活動を助言・検討する体制が整っているか。	4	4
3	研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地が養成所にあるか。	4	4
	平均	3.3	3.7

IV. 課題

平成 29 年度、平成 30 年の自己点検・自己評価から、次の課題が明らかになり、現在、課題に取り組んでいる。

I. 教育理念・教育目的

- ・卒業時点における育成する看護師の資質の明示

II. 教育目標

- ・卒後の継続教育に対する考え方の統一

III. 教育課程経営

- ・単元構成の考え方の統一
- ・教育評価に関する倫理規定の整備
- ・授業準備に関する時間の確保

IV. 教授・学習・評価過程

- ・指導技術に対する考え方の明示
- ・評価方法の検討

V. 経営・管理過程

- ・看護学校の存在のアピール
- ・文献検索システムの導入

VII. 卒業・就職・進学

- ・卒業生の就職先での評価と分析

VIII. 地域社会/国際交流

- ・国際的視野を広げるための自己学習システムの整備